

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

昭63-200916

⑫ Int.Cl.⁴
B 23 G 5/20

識別記号 庁内整理番号
6634-3C

⑬ 公開 昭和63年(1988)8月19日

審査請求 未請求 請求項の数 15 (全8頁)

⑭ 発明の名称 穿孔ねじ切り兼用工具とその使用方法

⑮ 特 願 昭63-26715

⑯ 出 願 昭63(1988)2月9日

優先権主張 ⑰ 1987年2月10日 ⑱ スウェーデン(SE) ⑲ 8700503-9

⑳ 発 明 者	ベルト エリク ベル イストリヨム	スウェーデン国、エス - 811 36 ーベージェン 23
㉑ 発 明 者	ハンス エリク リン ドベルイ	スウェーデン国、エス - 811 60 ングベージェン 7
㉒ 出 願 人	サンドビツク アクテ イエボラーグ	スウェーデン国、エス - 811 81、サンドビツケン (番 地なし)
㉓ 代 理 人	弁理士 青 木 朗	外3名

明 細 書

1. 発明の名称

穿孔ねじ切り兼用工具とその使用方法

2. 特許請求の範囲

1. 長手シャンク(10)と円錐前部(11)を含み、工具中心点から対称に延長する二枚の切刃(22, 23)と工具中心軸(17)に関して対称に延長したリブ(13, 14)を具備し、該両リブが工具中心軸(17)に関し対称に延長したチップフルート溝(15, 16)により分離されている穿孔ねじ切り兼用工具において、

工具中心に向けて半径方向に内延した各切刃(22, 23)の内縁部分が同一切刃の半径方向に外延した外縁部分と異なる外形を有し、十分な逃げ面(26)とチップ用空間(24, 25)が該内縁部分に隣接して配設されており、且つ

ねじ切り工作用に無ピッチで且つリブ(13, 14)上の等しい間隔(d)で以って成る切歯(18)が配設されており、当該リブ(13, 14)が円錐前部(11)に向け軸方向に延長した歯を具備している

(当該)

ことを特徴とする穿孔ねじ切り兼用工具。

2. 切歯(18)が振れたリブ(13, 14)の包囲面の1部によってのみ形成されており、各切歯(18)が半径方向の逃げ面と軸方向の逃げ面を具備していることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

3. 円錐前部(11)と軸方向後位にあるねじ切り工具部分との間の遷移域が軸方向に延長した円錐案内面(12a, 12b)を含み、この案内面がねじ切り工具部分の直径と同じ又はこれより幾分大きな径の軸方向に延長する小部分を有し、各案内面(12a, 12b)が案内リブとして設けられていることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

4. 案内面(12a, 12b)が切歯18と全ての点で等しい外形のものに置換されていることを特徴とする特許請求の範囲第3項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

5. 円錐前部(11)へ向け軸方向に延長した流体移送路を具備していることを特徴とする特許請

求の範囲第1項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

6. 切刃(22, 23)の半径方向に見て内側の部分が工具中心軸に向って対称的に湾曲しており、切刃の外側の部分が概して真直であることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

7. 各切刃が工具中心の又はこれに隣接した部分において約零の逃げ角を有していることを特徴とする穿孔ねじ切り兼用工具。

8. 各切刃部分は工具中心に向けて増加する曲率を有することを特徴とする特許請求の範囲第7項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

9. 切刃(18)を有するリップ(13, 14)が工具中心軸(17)に対して $0^\circ \sim 40^\circ$ の角で以って傾けており、ねじ切り工具部分が回転した時に円筒体又はシャンク(10)に指向した頂点と最大 1° の円錐角を有する円錐体を描くことを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

10. ねじ切り用の切歯(18)が円周方向で真直

に切られて、半径方向と軸方向の空隙を有しており、且つ本来円滑な円筒外形を有するはずのリップ(13, 14)の包囲面を切歯(18)が占めることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

11. 工具がその中心軸(17)に対して斜めに指向したベベル端縁(31a, 31b)を具備していて、このベベル端縁が工具中心軸の両側に対称的に配位していて、切歯(18)を具備した工具前部と軸向に見てその背後に位置するシャンク部分(32)の遷移域を形成していることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

12. ベベル端縁(31a, 31b)が工具中心軸(17)に対し $30^\circ \sim 60^\circ$ の角度で傾斜していることを特徴とする特許請求の範囲第11項に記載の穿孔ねじ切り兼用工具。

13. 1) 長手シャンク、切刃を具備した円錐前部及び両者の間に配位するリップを有し、各リップには半径方向へリップを越えて突出した切刃の半径方向上の最外部と半径方向の長さが等しいか又はそ

れよりも短い切歯が配設されている斯る工具を準備し;

2) 工具を自転、公転及びこれらの回転と同時のピッチ送りが可能なように工作機械に装着し;

3) 工具を工作物の方へ次いでその中へ自転させながら軸方向送りを行い、それによって切刃による中心線を有する穴を穿設し;

4) 工具を第1の距離だけ引き戻し;

5) 工具の中心軸を穿設穴の中心線に対し第2の距離だけ偏位させ;

6) 工具を自転させ、しかも同時に切歯を穴に係合させながら且つ軸方向に1ピッチだけ前進又は後退させながら1回転だけ公転させ;

7) 工具を穴と共軸になるように偏位を解除し;

8) 工具を工作物から引き戻す工程を含む穿孔とねじ切りの方法。

14. 穿孔中の工具自転速度がねじ切り中の工具自転速度に等しいことを特徴とする特許請求の範囲第13項に記載の方法。

15. 穿孔中の工具自転速度がねじ切り中の工具

自転速度と相違することを特徴とする特許請求の範囲第13項に記載の方法。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は穿孔・ねじ切り兼用工具と穿孔とねじ切りの工作方法に関する。この兼用工具は長手シャンクと工具前部における円錐前部を含み、この円錐前部は工具中心から対称的に延長する二枚の切刃及び相互に等しい形状の切歯を具備し且つ対称的に延長したチップフルートによって分離された対称的に延長しているリップを有している。

(従来技術)

穿孔(ドリル加工)とねじ切り加工等の機械工作をするためには、各々の工作に最適な各々異なる専用形式の工具が一般に使用されている。穿孔作業は硬質金属インサート(切削刃)を具備したドリルや硬質金属又は高速度鋼のソリッドドリル等の工具によって行われていた。

穿孔の後に内ネジのねじ切り加工が出来るよう

にするには、工作機械上の工具の変更が必要である。タップやボアバー等の工具をドリルに代えて取付ける。この場合のボアバーはその前端に半径方向に突出したねじ切りインサート（植刃）を具備しており、このインサートは工作物中の加工すべきネジに対応するネジ形状の切刃を有している。

作業現場の費用を節減するために、工具取替えのための段取り時間を要さずに順次幾つもの異なる工作が出来る兼用工具を使用するのが最も望ましい。

〔発明の目的〕

本発明の目的は、大きな送り量と切削速度でいて穿孔とねじ切りを行うと同時に好ましいチップ流れを出現させる新型の穿孔・ねじ切り兼用工具を提供することにある。

〔発明の構成〕

本発明の工具は、その中心に向け半径方向に内延する切刃内部が半径方向に外延する切刃外部と

がチップ搬送用に形成されている。両リブ13、14は工具の中心軸17に対し約 0° ～ 40° 、好ましくは 25° ～ 35° の角度で傾けられている。この角度が 0° のときは、リブは真直で且つ中心軸に平行である。

第1図と第4図から明らかなように、工具は中心軸17に関して完全対称の形状に成形されている。

各リブ13、14は無ピッチで1列に配位した相互に同じ外形と間隔dを有する多数のネジ形状歯18を有している。この歯形付リブは前部11まで延長している。これらの歯18はドリル円周方向に見てリブ13、14の包囲面の小部分を占めるように形成されている。これは工作物に穿設加工される孔に関して何らの問題も生じることなく良好なチップ流れを実現するために重要であるという事実を本発明者は発見した。ねじ切りに用いるようにしたこの1群の歯18は歯列に関して円周方向に真直に切られているが、しかしこれらの歯は半径及び軸方向の遊隙を有している。他方、前記

異なる輪郭（外形）を有しており、切刃内部に隣接して充分な逃げ面とチップ（切り屑）の流れる空間が設けてあり、そして工具の前部へ向けて延長する切歯を有するリブ上で当該切歯がピッチなして且つ相互に等しい軸方向の空隙を以て形成されていることを特徴とするものである。

本発明の上記及びその他の特徴は本発明の好ましい実施態様を示す添付の図面を参照して以下に詳細に説明される。

〔実施例〕

第1図～第3図に示す工具は硬質金属、スチール、又は高速度鋼の長手円柱状のドリルシャンク10を含んで成る。このドリルシャンク10の前端は円錐形前部11を形成している。この前部11は通常1mmより小さい長さで軸方向に延長した円柱案内面12a、12bに続いている。案内面12a、12bのすぐ後のドリルシャンク部分は二つの螺旋状に傾いた形状のリブ13、14を形成している。両リブの間には同様に傾いた形状の溝15、16

リブ13、14の包囲面の残余部分は滑らかな円柱状の丸い外形を有している。各歯の円周方向への延長寸法は歯の軸方向への延長寸法の最小で半分、最大でも二倍である。好ましくは、これら両種の延長寸法を同じにする。工具をその中心軸に関して回転させると、中心軸に直角の同じ平面上にある歯先が円形路を描く。全てのこの円形路は全体で円筒体を形成する。或いはまた、これらの円形路は円錐体を形成する。この円錐体の頂点はネジ工作中工具が弾性変曲し得るとはいえ、その間ネジが円筒形になるようにシャンクへ向けられている。円錐角は最大 1° である。従って、シャンク前部11に最も近い歯によって描かれる円形路の直径は軸方向上の後位にある歯によって描かれる円形路の直径より大きい。

工具は1以上の軸方向に指向した流体路（図示省略）を有している。これらの流体路は両方のリブに対称的に形成され、中心軸17の両サイドの夫々にある円錐前面19を終端にしている。

上述の通り、前部、即ちドリルチップ11と軸

方向に延長したドリル後部との過渡域は円柱案内面12a, 12bによって一種の歯として形成されている。ドリルチップの前面19は円錐基本形である。もっとも、特定の用途にあつては、円柱面12a, 12bを全ての点で残りの切歯18と完全に等しい外形の歯にすることが出来る。

工具の前面19には切刃部20, 21が形成されている。各切刃部は中心軸17からの法線に対し切削角 α を構成している。この切刃22, 23は工具の中心で会合する。この切刃22, 23は夫々の半径方向に見て内方の切刃部分が湾曲して概してS形の外形になり、他方半径方向に見て外方の切刃部分が概して真直の外形になっているように形成されている。切刃外部分は概して真直な外形であっても、第4図に示す角度で破断されていてもよい。

好ましい態様によれば、切刃内部分の曲率は、中心軸線17に隣接した個所においてそれより離れた個所よりも大きくなっている。更に、切刃内部分には、工具中心にある切刃22, 23の出発点において逃げ面が得られるように特別の凹所24, 25

が中心線17の両サイドに設けてある。この凹所24, 25は、拡大逃げ面26が各切刃に関連して工具の中心又はそれに隣接して形成されるように設けられ溝(溝)15, 16の底部に開設されている。この拡大逃げ面26は好ましくは概略零度の逃げ角を有している。凹所24, 25と誤れチップフルート15, 16(溝)の底部の間に形成された逃げ面の広域部分27, 28はチップ案内作用を奏する。

チップフルート15, 16の外形は、中心線17に直角の断面で見ても、切削角と共に変えることが出来る。この場合、切刃外部には多かれ少なかれ正成り又は負の基本形状を付与し得る。チップフルートの形状寸法はねじ歯の切削形状寸法を定める。従つて、所望の切削作業を最適にすることが可能である。

更に、ある用途にあつては、ねじ切りにとってより良い切削形状寸法が達成されるように各切歯18のチップ面を凹所で以て成形するのが有利である。これは誤れ外形とチップフルート15, 16の形状寸法によって達成された切削形状寸法を付

加的に変えることである。

本発明の工具の機能と作用モードは第6図④～第6図⑩を参照して詳しく説明される。ねじ切り穴(孔)29は本発明の工具によって工作物30に形成される。

先ず、第1の操作で、第6図④に示すように、穴を所望深さ④になるまで工具によって穿設する。次に、この工具を第6図⑤に示すように小距離⑥だけ穴から後退させる。この距離bは、 $b > \tan \alpha$ の条件を満たすのが好ましい。

次の操作は、工具を第6図⑥に示すように、ねじ外形深さの全部又は1部に相当する距離⑥だけ横に偏位させる。その後で工具を穿設穴29の内壁に工具の歯18を押圧させながら回転(公転)させる。この場合、工具軸17に関しての自転を同時に行うのが好ましい。これらの相対的運動と同時に完全に1軌道の螺旋状送りが行われる間に全周に亘つて歯に係合させながらねじ切る1サイクル操作を完了させるように工具を軸方向に送る。このサイクル操作を距離cが第6図⑦に示す

完全なねじ外形深さに相当するまで繰返される。

1軌道中の軸方向送りは距離④に等しく、この距離はねじピッチに相当する。このねじ切り操作の後、偏位している工具を第6図⑧に示すように穴の中央に戻し、次いで第6図⑨のように穴から工具を引き戻すことが許される。

以上の穿孔とねじ切りの方法は、詳しくいえば、下記の工程を含んでいる。

1) 長手シャंक、切刃を具備した円錐前部及び両者の間に配位するリップを有し、各リップには半径方向へリップを越えて突出した切刃の半径方向上の最外部と半径方向の長さが等しいか又はそれよりも短い切歯が配設されている斯る工具を準備し;

2) 工具を自転、公転及びこれらの回転と同時にのピッチ送りが可能なように工作機械に装着し;

3) 工具を工作物の方へ次いでその中へ自転させながら軸方向送りを行い、それによって切刃による中心線を有する穴を穿設し;

4) 工具を第1の距離だけ引き戻し;

5) 工具の中心軸を穿設穴の中心線に対し第2の距離だけ偏位させ;

6) 工具を自転させ、しかも同時に切歯を穴に係合させながら且つ軸方向に1ピッチだけ前進又は後退させながら1回転だけ公転させ;

7) 工具を穴と共軸になるように偏位を解除し;

8) 工具を工作物から引き戻す。

穴を穿設する間の工具の回転(自転の)速度はねじ切り工作時の回転(自転の)速度と同じでもよいし、相異してもよい。

円周送り(ねじ外周)と軸方向送り(ねじのピッチ)の組合せは公転と同時に軸方向ピッチ送り即ち1周回転と1ピッチ移動の組合せを可能にする工作機械により容易に為し得る。この工具により工作物に内ネジと外ネジの両者をねじ切ることが可能なことも理解すべきである。

第6図に示すケースにあっては、工作物30を静止体とし、工具が回転するものとしている。しかし、この工作物を工具に対し回転及び/又は円周送りし、1周回(1ターン)する間にねじピッ

チに等しい距離だけ互いに工具と工作物を軸方向に離間させるようにして工作することも可能である。

本発明の別の実施態様によれば、第7図a~第7図dに詳しく明示している通り、工具は傾斜したべベル端縁31a, 31bを具備している。この両べベル端縁は軸17の夫々のサイドに且つねじ歯18を具備した工具部分の軸方向に見ての後部に対称に配位している。べベル端縁31a, 31bはその背後に位置する工具シャンク32に接続している。べベル端縁31a, 31bは中心軸17に対し $30^{\circ} \sim 60^{\circ}$ 、好ましくは 45° で傾斜している。この工具による工作物の穴明け加工により、先ず孔29を貫通させる。次いで、この工具をべベル端縁31a, 31bが工作物の孔入口側に係合するまで更に送り込み、穴明け加工の最終段階でこのべベル端縁が孔のリムをかどり加工するように更に前方に送り込む(第7図a)。この工具を、その後にはべベル端縁が孔29から離れて回転するように軸方向にある距離だけ(第7図b)引き戻

し、その後で工具を第7図cに示すように所望のねじ外形深さの全長又は1部長に相当する距離cだけ横方向に移動させ、それから工具の歯18をドリル孔29の内壁に押圧させた状態で工具を回転(公転)させ或いはそれと同時に工具軸17に関し回転(自転)させる。これらの相対運動と同時に工具を軸方向に送り、それによって1周回の螺旋送りの間に歯18を全周に亘って係合した状態でねじ加工操作を完了させる。これは距離cが第7図dに示すように完全にねじ外形深さに相当するまで繰返される。軸方向の送りの間のピッチは1周回でねじピッチに相当する距離dと等しくする。次いで、工具は穴の中心に同軸状に戻し、そして元に戻される。

本発明に係わる工具は工具鋼、硬質金属或いは高速度鋼或いはこれらの組合せ材料から製作出来る。工具鋼製の工具本体の場合、歯外形の切刃及びドリル前端(チップ)は工具本体にろう付け又は締結された硬質金属ウエハースに形成される。

別の実施態様によれば、工具は外周材料部分と

芯部分から成る。

この外周材部分は高速度鋼の基体に硬質物質を含む材料で作成得るが、芯部分はより強固な材料、好ましくは工具鋼や高速度鋼で製作される。材料をこのように区別することにより、穿孔ねじ切り工具のために材料の工作と必要な鋭利な切刃に研磨することが可能になる。

上述の工具により、三種の異なる工作、即ち穿孔(ドリリング)、角とり及びねじ切りを工作スピンドル(図示省略)において交換することなく実行できる。

従って、重要な停止時間を減少させ、従来工具に比較して一段と低コストの工作が出来るという利点が生み出される。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係わる穿孔ねじ切り兼用工具の側面図、第2図は第1図の線II-IIにおける切断面図、第3図は第1図の工具の拡大部分側面図、第4図は第3図の工具の先端を示す正面図、第5図は第3図の線II-IIにおける切断面図、第6図

第1図～第5図の工具とこれにより穿孔とねじ切りが施された工作物を示す部分断面説明図、及び第7図a～第7図dは本発明に係る別の態様の工具とこれにより工作された工作物を示す第6図に対応した部分断面説明図である。

図において、

- 10…シャンク、11…前部、
- 12a, 12b…案内面、13, 14…リブ、
- 15, 16…溝(チップフルート)、
- 17…工具中心軸、18…切歯、
- 19…円錐前面、20, 21…切刃部、
- 22, 23…切刃、
- 24, 25…チップ用凹所(空間)、
- 26…逃げ面、27, 28…広域部分、
- 29…穴(孔)、30…工作物、
- 31a, 31b…ベベル端縁、
- 32…工具シャンク。

以下空白





